

令和4年度 公社等経営評価シート
(対象期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日)

概要	名称	一般社団法人宮崎県家畜改良事業団		所在地	児湯郡高鍋町大字持田5734番地		
	電話番号	0983-22-3020		ホームページ	http://www.mwia.or.jp/		
	設立年月日	昭和44年9月30日	代表者	理事長 坂下 栄次	県所管部・課	農政水産部畜産新生推進局畜産振興課	
	総出資額	98,000 千円		県出資額	40,000 千円	県出資比率	40.8%
	設立目的	肉用牛の改良及び増殖を促進するため、種雄牛を繋留し、家畜人工授精用凍結精液の計画的な製造管理、肉用種雄牛産肉能力検定推進を行う。					
	特記事項						

内容		令和2年度	令和3年度	令和4年度
①公社等のあり方見直し		凍結精液の不正流出を防止するため、管理体制の徹底を行った。	凍結精液の安定的供給のため、飼養管理方法及び採精技術の向上により体制強化を図った。	凍結精液の安定的供給のため、飼養管理方法及び採精技術の向上を図り、経営の安定化と体制強化を図る。
②公社等の経営見直し	経営・事業運営改善	中長期的な経営改善計画の策定・実施	衛生面を強化するため、衛生管理区域外に事務室の移築を行う検討を実施した。	衛生面や作業効率を考慮した施設整備計画を県と協議し、防疫面に最大限配慮した上で敷地内に事務室を移設した。
	財務改善	安定的経営に向けた収益確保	安定経営に向けた適正な会計処理を公認会計士との協議し、監査機能のさらなる強化を図った。	会計処理の視点から費用軽減に向けた検討を実施した。
	組織等適正化	適切な事業推進に係る経営指導の実施	適正な経営に向けた県との協議を適宜実施した。	適正な経営に向けた県との協議を適宜実施した。
③県と公社等関係の見直し	人的支援見直し	県職員の役員就任の見直し検討	適正な経営に必要な体制の検討をした。	適正な経営に必要な体制の検討を実施した。
	財政支出見直し	県補助金の見直し検討	肉用牛改良事業の円滑な実施に向けて、県と協議し進めた。	肉用牛改良事業を円滑に進めるとともに、今後の予算のあり方について県と協議した。
④情報公開推進	ホームページでの情報公開	適宜情報公開に取り組んだ。	種雄牛や検定牛等について適宜情報公開に取り組んだ。	種雄牛や検定牛等について適宜情報公開に取り組む。

	(人)	令和3年度				令和4年度			
		合計	県職員	県退職者	左記以外の者	合計	県職員	県退職者	左記以外の者
県関与の状況	人的支援								
	役員数	21	1	1	19	21	1	1	19
	常勤	2	0	1	1	2	0	1	1
	非常勤	19	1	0	18	19	1	0	18
	職員数	25	0	0	25	25	0	0	25
財政支出等	(千円)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	(千円)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	県委託料	130,732	133,256	127,445	県借入金残高	0	0	0	
	県補助金	0	0	0	県の損失補償契約等に基づく債務残高	0	0	0	
	県交付金・負担金・出資金	0	0	0	県職員人件費(県支給分)	0	0	0	
その他の県からの支援等									
主な県財政支出の内容	事業名	事業内容			令和3年度 決算額(千円)	令和4年度 予算額(千円)	種別		
	①	宮崎県肉用牛改良総合対策事業	産肉能力を把握するための直接検定及び現場後代検定を実施する			127,445	126,594	委託料	
	②								
	③								
	④								
	⑤								

実施事業	① 肉用種雄牛の繋養管理						
	② 肉用牛凍結精液の製造及び譲渡						
	③ 肉用牛凍結精液の購入及び譲渡						
	④ 凍結精液の普及及び効果の確認						
⑤ 肉用種雄牛の産肉能力検定事業							
活動指標	指標名	算式(単位)	令和3年度			令和4年度	令和5年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	目標値
	①	凍結精液譲渡本数 (本)	133,000	146,063	109.8%	175,000	175,000
	②						
③							
指標の設定に関する留意事項							

財務状況	収支計算書 (千円)				貸借対照表 (千円)			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度
収入 A	605,502	622,356	593,269	資産 A	1,010,230	1,041,079	1,016,982	
事業収入	332,577	315,766	301,412	流動資産	716,403	761,486	730,302	
補助金等収入	130,732	133,256	127,445	固定資産	293,827	279,593	286,680	
上記以外の収入	142,193	173,334	164,412	負債 B	274,435	280,091	251,766	
支出 B	571,308	597,164	589,041	流動負債	82,814	94,207	75,514	
事業費	457,275	484,810	491,424	固定負債	191,620	185,884	176,252	
管理費	90,999	95,168	89,382	正味財産 A-B	735,796	760,988	765,216	
その他の支出	23,033	17,186	8,234	うち基本金	0	0	0	
当期収支差額 A-B	34,194	25,192	4,228	うち当期正味財産増減額	34,194	25,192	4,228	

※千円未満を四捨五入して表示しているため、合計の金額と一致しない場合があります。

財務指標	指標名	算式(単位)	令和3年度			令和4年度	令和5年度	
			目標値	実績値※	達成度(%)	目標値	目標値	
	①	自己収入比率	(自己収入+自主事業収入) / 当期支出合計 × 100 (%)	80.0	75.9	94.8%	80.0	80.0
	※	令和3年度 実績値の算式	(145,474千円+301,412千円) / 589,041千円 × 100					
②	管理費比率	管理費 / 当期支出合計 × 100 (%)	20.0	15.2	124.1%	20.0	20.0	
※	令和3年度 実績値の算式	89,382千円 / 589,041千円 × 100						
③								
※	令和3年度 実績値の算式							
指標の設定に関する留意事項								

直近の県監査の状況	
-----------	--

総合評価	公社等自己評価	県内の繁殖雌牛頭数の増加により、凍結精液譲渡本数は増加している一方で、価格の高い種雄牛の利用が減少し、価格の安価な種雄牛の凍結精液の利用が増えたことにより事業収入が減少した。しかしながら、自己収入の増収や管理費の削減ができたことで、8期連続の黒字決算となった。				県所管部課二次評価	県内の繁殖雌牛頭数の増加や能力の高い種雄牛の凍結精液価格を改定したことにより、今後は安定した売上げが見込まれる。また、費用の節減(管理費の削減)が図られ、負債額も減少しており、8期連続の黒字決算を達成していることから、本県の肉用牛経営の要となる施設として安定的な供給体制が構築されていると評価できる。			
	評価 (A:良好, B:ほぼ良好, C:やや課題あり, D:課題多い)	改革工程	活動内容	財務内容	組織運営	評価 (A:良好, B:ほぼ良好, C:やや課題あり, D:課題多い)	改革工程	活動内容	財務内容	組織運営
		A	A	A	A		A	A	A	A
	目標達成度					公社等改革推進委員会三次評価	活動内容については、県内の肉用牛雌牛が増加する中、凍結精液を安定して供給できており評価できる。財務内容については、より安価な種雄牛の凍結精液の利用が増えたことから事業収益の減となったが、施設の改修等のため長期計画に基づき積み立てを行い計画的に施設更新を行っており、評価できる。引き続き、徹底した防疫体制と凍結精液の管理体制の強化を図りながら、優秀な種雄牛の造成と凍結精液の安定供給に取り組むことが求められる。			